

巻 頭 言

基礎技術の一層の充実を目指して



内外装部品事業部副事業部長
取締役 掃 部 正 俊

昨今の自動車業界においては、品質、コスト、開発期間短縮等、あらゆる側面において熾烈な闘いが行われている。

この闘いの勝者になるため、資本面、販売面、技術面等の諸要素について戦略・戦術が繰り広げられ企業の合従連衡もさかんに行われている。資本の大きさ、事業の大きさに関係なく、独自の強さを持ち、勝ち残りの重要な一つの手段になるのが基礎技術であると考え。

技術を、あえて性格付けすると、自然的現象を捕らえた、普遍的、汎用的な基礎技術と、工学や人間社会等の変化、発展に合わせて生み出される応用技術がある。技術的価値の普遍性、利用度、利用範囲の広さ、成果の大きさ等を考えると、基礎技術充足はとりわけ重要である。

当社が今、基礎技術を必要とする事項として、材料に関してはコンパウンド挙動や被加工性の定量化、設計における寿命・性能の予測、生産における不良解消、ハイスピード成形、リサイクルにおける異材質の分離、解析における変形予測等数多くある。これらは以前から必要性を感じ、取り組みをしているがまだまだ不十分である。

コンピュータ活用により、解析や検証のスピードアップが計られてきたが、現象データを多方面から解析するも、発生現象の定性的解説にとどまっている感もある。

狙った目的・目標達成の具体的手段確保に至っていないものもある。

今あらためて物理学、化学の基本原則を思い起こし、自然の摂理で発生している現象を正しくつかむという考えに立ち返り、現象をしっかりと観察・考察し、因果関係の仮説を立て、要因一つ一つについて、結果との関係を定量値で確認し、正しい理論を構築し、技術にしていく事が必要と考える。基礎技術充実に一層の努力をしていきたい。